



浅植えしたあと、定植後45～50日ごろに株元の根っこを洗いだす。写真は熊本県矢部町の菅義則さんのピーマン（撮影はすべて赤松富仁）

# 根洗い二年、シシトウが一本も枯れなくなった！

編集部

ヨシオさんは連作二〇年以上のシシトウ（全部で三七〇本）に立枯れが出て困っていたが、『現代農業』を見て「根洗い」を試してみたところ大成功！二年続けて試して、二年とも、一本も枯れなかった。おかげで以前は一株から六〇パック（一パック三〇～三五本）が平均だったのが、二年つづけて九〇パックくらいとれるようになった。二〇年以上も連作している土地で増収したのだ。あんまりいい話だから本当は誰にも言いたくない、というヨシオさんをお願いして、その様子をうかがった。

シシトウが、みるみる枯れて三分の一に

あれは三年前だったかなあ。イネ刈りが終わったあとに大雨がふって田んぼに水がたまってね。ワラがいつぱい浮いて、たまたま一カ所に寄ってたから、取り出すのも簡単だったもんでシシトウのハウスへ入れたんですよ。寝かせないですぐに、トラクタで土と混ぜないぐらい大量に。

そうしたら、その年、三月の初めごろに植えて四月の中ごろから成り始まったシシトウが、五月ごろからしおれ始めたんですよ。

日中暑くなると葉が下がってきて、水をくるとその日は何とか持つし、夕方いくとよくなったように見えるんだけど、みるみるうちに葉が落ちてきて、毎日一本、二本と枯れていくの。すぐに農協や普及センターに電話して聞いたら「リゾレックスかん注すれば？」っていうから、立ち直らせようと思ってやってみただけで、全然回復しない。結局、うまくいけば十一月の上旬までとれるはずのシシトウが、六月には全体の三分の二が枯れて、三分の一しか残らなかった。いやあ、会社員がリストラされたといっしょ。お先真つ暗だよ。

### 『現代農業』見て、あつ!! と思った

それで次の年、『現代農業』をめくってたら、「ナス科野菜の病気は根洗いで防げ」という記事(二〇〇一年四月号二〇六ページ)があつて、あつ!! と思って見たんだよ。

確か、記事を見たのはシシトウを植えたあとすぐ。農協や普及センターの先生が、ワラに病原菌がいて、それが繁殖したんだろつっていうから、その年はワラを入れるのはやめて、恐る恐る植えてあつた。根洗いするにはちょうど

いいタイミングで、運がよかつただよね。

とにかく何かにすがりたい気持ちだったから、去年と同じ結果になつてもいいや。もしよかつたら、めつけもんだぐらいの気持ちで、最初から三棟のハウスぜんぶで根洗いをやってみたの。

### 実が成りだしてから根を二回洗いだした

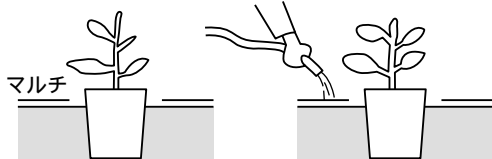
記事に、「できるだけ浅植え」にして、「定植後四五〜五〇日ごろ」に、「株元の根っこを殺菌剤と発根剤で洗い出す」って書いてあつたから、まず発根剤を買いに行った。発根剤はこれと決めてたわけじゃなくて、たまたま肥料屋が教えてくれた「育王」(昭光通商株)というやつ。

「できるだけ浅植え」って書いてあつたけど、もともとうち浅植え。マルチを張つたあと、ベッドの表面から鉢土が一〜一・五cm出るくらいに浅植えしてる。

根洗いは二回やつたほうがいいって書いてあつたから、一回目はシシトウがポロポロと着きだしたころ、二回目はその一カ月あとくらいだったかな、殺菌剤のオーソサイド一〇〇〇倍液に発根剤の育王三〇〇倍液を混ぜて、動噴で鉢土のまわりにぐるっとかけてみたの。そうしたら、ベッドが水分でだんだん締まつて沈むから、自然にポット部分の根が二cmぐらいむき出しになつてくるんだ。

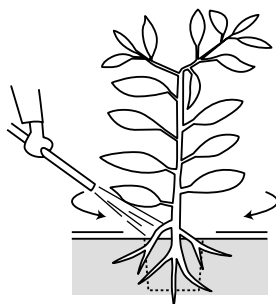
## 植え方で病気を減らす

図 ヨシオさんの根洗いのやり方



ベッド表面から鉢土が1~1.5cm出るくらいに浅植え

根が張るまでの植えて半月ぐらひはマルチのところからこまめにホースかん水して鉢土の乾燥を防ぐ



定植40~50日ごろ、オーソサイド1000倍液と発根剤の育王300倍液で根を洗いだす。その1カ月後、もう一度洗う



洗い出されたばかりのピーマンの根っこ。乾燥はするけれども、それ以上に根にとっては空気があって通気性がよいことのほうが重要なのかも知れない

さすがに一回目はシトウが枯れちゃうんじゃないかと思っ  
て、こわかったよ。まだ樹も小さいシトウの根を洗  
いだすっていうのは人間を裸にするようなもんだから  
ね。

### 今でも忘れねえ 根元がこぶのようにはれてきた

でも、前の年には五月にしおれた株が出たのに、その年  
は調子よかったの。ダメなときは、ふつう実が成りだす五  
月ごろにはしおれてくるんだけど、その年は調子よくなって、

これはいけるなって思い始めた。

それに、一回目の根洗いのあと、本に  
も書いてあったみたいに、実際の根元の  
ところがこぶみたくにはれてきたの。地  
面から5cmくらいのところがだんだん太  
つてくる。しかも水がしっかりかかって  
鉢土がえぐれたところほど、ふくらんで  
くる。それから、気がつかないうちに、  
むき出しになった根が幹と同じような緑  
色に変わって、大げさかもしんないけ  
ど、太さは小指くらいのももあったよ。  
しおれは出ないし、根元が太くなって  
くるし、ハウスに行くのが楽しくてね。



洗いだされた根は太いものは小指ぐらいになり、幹も片手がまわらないほど太くなる。知らないうちにむき出しの根は幹と同じ色になる。根を洗いだされた作物は生命の危機を感じて踏ん張ろうとするのだから、樹幹下はものすごい細根の量になる

そのときのことは今でも忘れねえよ。

やった！ 一本も枯れなかった  
むき出しの太根の下は細根だらけ

シシトウは長期作物だから、疲れてくると実が黄色くなったり量が少なくなったりするんだけど、その年は全然疲れた様子もなかった。それで結局その年は一本も枯れなかった。やった！って感じだったね。

収穫が終わって根を抜いてみようとしたら、まっすぐ上

に抜けない。スコップで下まで掘ってやらないと抜けないくらいで、抜いて見ると、むき出しになってた太根の下は細かい根がすごかった。

前の年と変えたことは、ワラをやめたのと根洗いだけ。ワラは入れ方を間違っただけで、ちゃんと腐らせて入れればいいはずだから根洗いがよかったに違いない。そう思っ、次の年（去年のこと）もまったく同じ方法で根洗いを二回やった。そうしたら、また一本も枯れなかった。本当だよ。つくってる本人もたまげたくらいなんだから。一年だったら偶然ってこともあるけど、二年続けてだから、これは確かに連作障害に効果があるなと思ったね。

枯れても仕方ないと思ってたけど……

うちのハウスは田んぼの中にあるんですよ。地下水位も高いところ。だから、ハウスは客土して建ててるし、なるべく水はけをよくしようと思って高ウネにもしてる。毎年センチュウ対策にD、Dで土壤消毒もしてる。だけど、なにせ後作の葉物との二回転でビニールも一年じゅう張りっぱなし。それで二〇年以上連作だから、シシトウは毎年何本か枯れても仕方ないっていう気持ちだったですよ。ただ、たまげるほど枯れたのはその年が初めてだったから慌てただけ。

## 根洗いはスタミナ型生育!?

記事に「ナスやピーマンは初期の根傷みの影響が大きくて、乾燥させたりすると初期生育が悪くなるから、浅植えしてから盛土するといい」(二〇〇二年四月号一五六ページ)って書いてあったけど、盛土はしきないですね。うちはベッドも高ウネだから浅植えだと確かに根が乾きやすいかもしれない。でもその代わり、根が張るまでの植えて半月ぐらいいは、鉢土を壊さないようにマルチのところへホースかん水して、水やりをこまめにやるようにしてます。

根洗いをするようになって、前にはポツポツと枯れてた五月から六、七月あたりの収量が伸びましたね。この時期は単価も高いです。それに八月に切り戻したあとも成り疲

れしないみたい。根洗いすると根が張るからかな。

## 片手がまわらないくらい太い幹

その辺のことと関係すると思うんだけど、根洗いすると根元だけじゃなくて幹がものすごく太くなる。ジューズの缶っていうと大げさだけど、片手でまわらないくらいのは太さはある。地際がとっくりみたいに太ってるのは根量が多い証拠だっていうけど、根洗いをやって幹が太くなった樹も、それだけ根が絶対張ってるんだと思いますよ。

こんなこというと何なんだけど、収穫が終わってハウスからシシトウの残幹を出して田んぼで燃やすとき、あちこちのシシトウの幹を見て「あ、うちのより大したことないな」って思っちゃいましたよ。